

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	市街地開発事業（住居系市街地整備）	部課名	経済建設部・市街地整備推進室
		作成者	河北 裕喜
①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている		
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる		
③中施策	生活利便性の高い街をつくる		
④中施策事業の対象	市民及び転入者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民及び転入者が住み続けたいと感じるような市街地が整備されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・新市街地整備事業（寺池地区） ・新市街地整備事業（間米南部地区） ・豊明阿野平地土地区画整理事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
土地区画整理事業 によって整備され た市街地の面積（ 市全域）	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		357.08	357.08	358.68	358.68	358.68
	実績値	357.08	357.08				
単位	ha						
新たに住居系の土 地利用が可能とな った区域の都市計 画決定面積	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	6	6	26
	実績値	0	0				
単位	ha						

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			72,720千円	37,441千円	
人 件 費	a 事業費合計		60,818千円	19,714千円	69,916千円
	正規職員	人数	2人	3人	
		b 金額	11,902千円	17,727千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		11,902千円	17,727千円		
② 補助金等（収入）			13,300千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）			59,420千円	37,441千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			864円	544円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成28年度は住居系市街地の整備に向けた検討に着手した。
-----------------------------	------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	住居系市街地整備を推進するため、区画整理組合に対する支援（補助）制度の要綱化を進める。 また、将来的に国庫補助の対象となる要件を模索するとともに、立地適正化計画策定の必要性について調査を進める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	住居系並びに産業系の市街地整備について、事業に向けた検討・準備を進めるとともに、地権者の合意形成を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 組合区画整理支援制度 化事業	内容、理由、時期等 組合施行の土地区画整理事業に対する支援（補助）制度を要綱として定める。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 市街地再開発事業等検討事業	内容、理由、時期等 都市拠点である前後駅周辺において、都市機能を集積し、居住を誘導するため、土地の高度利用に係る調査等を行う。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		